

たまのよこやま

東京都埋蔵文化財センター報 No. 40 平成9年6月10日



発行

財団法人 東京都教育文化財団
東京都埋蔵文化財センター
〒206 東京都多摩市落合
1-14-2

☎ 0423-73-5296

平成9年6月10日



展示ホールの展示風景

展示によせて

調査研究部 安孫子 昭二

今年度の展示テーマを「丘陵における文化の醸成」としたところ、「醸成」は難しい、もっと分かりやすい用語を使うべきだという意見があった。確かにそうであるが、この用語を使った意図について説明させていただきたい。

多摩ニュータウン地域には、旧石器時代から近世にいたるおよそ一ヶ所もの遺跡がある。この地域は、大半が支丘陵と狭い沖積面が交互に織りなす地形で、平坦面に乏しいためか大規模な集落遺跡はあまりない。その代わり、時代を超えて、性格の異なる遺跡がいたる所に営まれている。

縄文時代早期には、丘陵地の一帯に陥し穴による罌^{わたりう}が盛んであった。中期には、土器作りのための粘土を大規模に採掘しているし、東北地方から東海地方以西に及ぶ、広域な集団との交易関係を窺わせる土器も出土する。古代には、良質の粘土と豊富な燃料を背景に窯跡群が築かれたし、丘陵で事欠かない木材を使って、鋤^{すき}や皿などを製作する專業集団も居たらしい。

このように、豊かな自然が育んだ丘陵の文化は実に多様なものであって、いつの時代も活性していたようである。それ故に、「形成」ではやや平板な印象が否めない。「醸成」とした所以である。

青島知事が視察

— 東山道武蔵路 —

四月十六日の午後、青島知事が西国分寺分室を訪れました。当センターでは現在、多摩都市整備本部が進めている「西国分寺地区特定住宅市街地総合整備促進事業」に伴い、この地域の埋蔵文化財を調査しています。知事は、この事業を視察する一環として、昨年度来、保存問題で話題を呼んだ「東山道武蔵路」の現地状況にも関心を寄せたものです。

知事は、分室で、まず多摩都市整備本部長から全体の事業概要を聴き、次いで当センターの佐藤調査研究部長から、「東山道武蔵路」について説明を受けました。

古代の官道「東山道」が南北に一直線に延びている様子、東山道と武蔵国府および武蔵国分寺・国分尼寺との関わり、また、当初の道路規模の12m幅が後に9m幅に狭められていること、道路両脇に道路幅を規定する溝があること、踏み固められて硬化した路面が残っていることなどが、写真パネルを使って説明されました。そして、この道路跡が開発側の理解により保存が決まり、現在、保存方法と活用の仕方を検討してい



ることが付け加えられました。

この後、現地に出て、道路の中央に一本だけ残った桜の樹の近くで状況を写真に撮りました。今年も樹いっ

第18回 全国埋蔵文化財法人

連絡協議会総会の開催

18回目を迎えた法人連絡協議会の総会が、今年度は、当埋蔵文化財センターの主催で開催される。

総会は、六月十二日（木）に、港区青山にあるホテルフロラシオン青山を会場に開催されるが、今回は61加盟法人のうち、60法人から160余名

ばいに花をつけた桜は葉桜に差ししかかっていましたが、知事は、真っ直ぐ延びる大規模な東山道から古代ローマの道をイメージされたようで、「石畳ではなかったのか……。」などと質問されていました。（写真）

東山道跡は保存が決まったために砂を厚く被せて養生していますが、保存により道路計画が変更されたため、その東側を調査しています。この地点で東山道の路面の高さが観察できましたから、改めてこの道を実感されたことと思われま

帰途に知事は、事務所の前に居合わせた作業員さんの呼びかけに気軽に応じられて記念撮影に収まり、なかなか雰囲気はな、次の訪問先の武蔵国分寺跡に向かわれました。

（雪田 隆子）

もの参加者が見込まれている。

当日は、午後二時四十分

に開会し、会長挨拶、主催法人挨拶、来賓挨拶、功労者表彰、さらに文化庁岡村道雄主任文化財調査官の講話を受けた後、休憩をはさみ五時三十分まで、およそ10項目の議題が審議されることになっている。

東国の須恵器

△シンポジウムだより△

さる三月一・二日、宇都宮市の栃木県立博物館において、古代生産史研究会シンポジウム「東国の須恵器——関東地方における歴史時代須恵器の系譜」が開催されました。シンポジウムは関東各地の奈良・平安時代の、主に窯跡から出土した須恵器を中心にしてその変遷・地域的特徴を抽出し、地域間での器形・技法などの類似から、東国の須恵器の系譜を明らかにしようというものです。

当センターからは鶴間正昭副主任調査研究員が、「律令成立期の須恵器の系譜——埼玉県・東京都」という題で発表しました。

当日は、参加者が会場からあふれるほどの盛況で、シンポジウムへの関心の高さが窺えました。

（大西 雅也）



会場風景

豪壮！尾張御殿

大名は江戸に複数の屋敷をもっていましたが、その規模や構造は、格式や祿高ろくたかによりかなり違っていたようです。

尾張徳川家は、将軍に次ぐ格式を誇った御三家です。江戸における政治・外交の中核であった上屋敷（市谷邸）が、他の大名屋敷に比べていかに別格で立派であったかを、発掘調査の成果と絵図で見てください。



文化財講座 <30>
大江戸掘りもの帖 ~ 其7 ~

調査が進むにつれ、それぞれの建物が、ほぼ図面通りの位置と規模で存在したことがわかってきました。

中心となる御殿の構造が、江戸城本丸御殿と同じように、表・中奥・奥の三つの部分に区別されていたこととどの大名屋敷でも同じです。また、表玄関の向かって左側には、両側を扉で挟まれた武家の屋敷を象徴する塀重門へいじゅうもんがあることも同様です。

ではいったい、どこが違っていたのでしょうか？

まずは、その規模です。

八万坪におよぶ敷地面積の広大さはもちろんですが、梁間三間以下とした法規則を超える大きな建物が、少なくとも二棟存在したことです。

一つは、表の書院で、格式によって座る位置を明確に区別する上段と下段が設けられていたことが、発掘でも確認されています。いま一つは、奥の御対面所で、江戸城本丸の御体面所部屋の規模・構成がほとんど同じです。

次に、その建物の格式です。

表の書院の南西には、格式の高い大名家にしか許されなかった能舞台がありました。その規模は、当時最高の格式を誇った江戸城本丸大広間の表舞台にもひけをとらない本格的なものでした。また、将軍の居城である江戸城に次ぐ格式の表玄関を構えていたことも大きな特徴です。御玄関の柱がのっていた礎石はとても大きく、上に建っていた建物が重厚で壮麗であったことが窺えます。

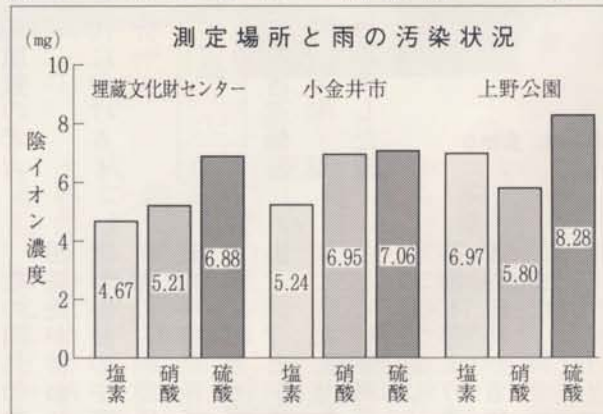
このように格式が高く規模も大きな御殿が、高台の広大な敷地に建っている様子を想像すると、なかなか壮観ではないでしょうか？

(江里口 省三)

保存科学室のぼれ話 (四)

雨から地域の汚染状況を探る

雨は空の掃除屋さんといえるでしょうか、雨が降り空はとてもきれいになります。しかし、前回は紹介しましたが、大気中のガスや埃が自動車の排気ガス、工場・焼却場から排出されるNOx(窒素酸化物)やSOx(硫黄酸化物)などであれば、雨に溶けて酸性雨となり、環境汚染の元凶になるのです。これが植物や文化財にも悪影響を及ぼすことになります。



台風などいろいろ違いがありますが、雨の中に含まれる硝酸や硫酸イオンの濃度を測定することで、環境汚染の状況や原因が分かります。昨年の五月から、当センターでは屋上に雨水採取装置を設置して、月に降った雨を測定しています。

それによれば、都心の上野公園が最も汚染度が高く、中間に小金井市（学芸大学）があり、同じ多摩地域でも都心から離れている多摩市の場合は、あまり汚染されていない様子が、このグラフから読み取ることができます。酸性雨の汚染状況をピーエイチまたはペーハー（pH）で表示しますが、今回はこれについて紹介しましょう。

(門倉 武夫)

東京都遺跡調査研究発表会

第22回を迎えた発表会が、8年度は八王子市教育委員会の協力を得て、芸術文化会館（いちようホール）で、二月二日（日）に開催されました。

昨年度から発表要旨が無料配布になったこともあり、大勢の考古ファンが詰めかけました。なお、当センターからは、日の出町三吉野遺跡群を松崎元樹が、汐留遺跡を西澤明が調査の成果を発表しました。

平成9年度 広報普及事業のご案内

日 時	行事名	内 容
5/ 3(土) 10:00~15:00	展示資料の解説 縄文土器の野焼き 雑穀の種まき	展示ホールで展示を解説する 縄文土器の焼成の実演(参観自由) 庭園でアワ・キビ・ソバ等を作付け
6/14(土) 13:30~15:30	学校週5日制対応事業	映画「三内丸山遺跡」・「森と縄文人」
6/28(土) 13:30~15:30	学校週5日制対応事業	映画「吉野ヶ里遺跡」・「甦る歴史」
7/ 5(土) 13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「土器作り粘土の採掘とその行方」 講師 上條 朝宏 都埋文センター
8/ 2(土) 13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「古代の丘陵開発」 講師 鶴間 正昭 都埋文センター
8/21(木)・22(金) 9/13(土)	縄文土器作り教室 定員30名	詳細は「広報東京都」等に掲載の予定。 応募者多数の場合は抽選になります。
10/ 4(土) 13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「東日本の初期稲作」 講師 山田 昌久 東京都立大学
11/ 8(土) 13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「黒曜石の採掘と交易」 講師 大竹 幸恵 長門町教育委員会
1/24(土) 13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「朝鮮と日本のやきもの」 講師 村山 武 (財)日本陶磁協会
2/14(土) 13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「中世の流通経済— 錢貨」 講師 竹尾 進 都埋文センター

- * 会場 東京都埋蔵文化財センター会議室
- * 講演会、映画鑑賞会の参加費は無料です。
- * 遺跡見学会についてはその都度、都広報等でお知らせします。



土器を焼くコツは、まず十分に焼って乾かしてから……。

恒例！縄文土器の野焼き

五月三日、このところ恒例になりました野焼きを行いました。土器は、センターの職員たちが作り置きしていたものと、一般の同好者が持ち込んだものが60個体ほど。あいにくの降雨にも関わらず上出来でした。

文部省科学研究費補助金の交付

当センターの左記の5名に内定通知がありました。

小葉 一夫「縄文時代の住居型式設定と領域に関する基礎的研究」

鶴間 正昭「考古学資料の分析による古代丘陵開発の実態把握」

丹野 雅人「土器型式の成立と終焉その社会的背景と人間の動態」

内野 正「近世大名屋敷の考古学的研究」

山本 孝司「縄文時代におけるイレギュラーな土器の分析」

新発見考古速報展に出品

今年で三回目を迎える考古速報展に、当センターからは、No.245・248(粘土採掘跡)遺跡から出土した遺物類が出品されます。



粘土採掘跡から出土した資料の一部。食物などを盛る浅鉢が多い。

秋川分室の開設

この五月一日付で、首都圏中央連絡道路の建設に伴う、あきる野市代継・富士見台遺跡の調査が始まりました。千葉基次係長と小坂井孝修・竹尾進・竹田均副主任調査員が従事します。

人のうごき

この四月の定期異動で、総務課の四係長が替わりました。課長補佐兼庶務係長の牛島忠夫が中央図書館資料部に、経理係長の塩野福松が多摩教育事務所西多摩支所に、施設係長の前山孝雄が多摩都市整備本部に転出、調査センター係長の江頭晃が定年で退職しました。それぞれの後任として、学務部より中村渉、多摩社会教育会館より坂本直洋、多摩都市整備本部より斎藤勝則、総務部より圓谷和功が着任しました。

また、調査研究部の佐藤宏之が三月三十一日付で退職し、四月一日付で東京大学文学部助教授に就任されました。佐藤氏は、北海道常呂郡常呂町にある東京大学考古学実習施設で後輩の育成に当たられます。

また、再雇用職員の山崎充・伊藤雅子が雇用期間を満了、替わって和田吉司・高橋明子が採用されました。